

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科	
科目名称	ESD・環境教育演習					授業形態	演習		
科目コード	750184	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃							ICT活 用	○
授業概要	<p>新・学習指導要領は、ESDを一つの基盤として、議論が進められ策定に至った。学習指導要領から、最終的にESDという文言は消えたが、その理念や内容は確実に取り入れられ、ESDと学校教育の融合性は高い。</p> <p>本演習では、野外活動を通してさまざまな自然環境や環境教育実践に触れて、受講者自身が自然体験することを基礎とする。その上で、環境教育を生態学及びESDの視点から捉え、教育現場における幼児や児童を対象とした環境教育の現状・問題点を把握し、地域の環境問題の見聞を踏まえて、受講者自身が環境教育のプログラム立案をおこない、環境教育の実践的な力を身につけることを目指す。本講義は、3年次開講の「環境教育論」の実践編である。</p>								
関連する科目	環境問題入門、ESD・環境教育論、ESD・環境問題演習								
授業の進め方 と方法	はじめに、ESDと学校教育に関する理論や現状について学ぶ。その後は、フィールドワークの準備と実施、まとめを繰り返す。最終的にはプログラムを立案し、模擬的にプログラムを実践する。								
授業計画 【第1回】	<p>< 1日目 > 第1回：自然に学ぶ意義：ESD(持続可能な発展のための教育)の視点に立った環境教育 ・学校教育における環境教育の現状と課題(ESDカレンダーと問題解決学習)について理解する。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>< 1日目 > 第2回：干潟の生態系 ・海川里山のつながりのなかで干潟について学ぶ</p>								
授業計画 【第3回】	<p>< 1日目 > 第3回：川の生態系 ・海川里山のつながりのなかで河川について学ぶ</p>								
授業計画 【第4回】	<p>< 1日目 > 第4回：里の生態系、森林生態系 ・海川里山のつながりのなかで里山と森林生態系について学ぶ</p>								
授業計画 【第5回】	<p>< 2日目 > 第5回：プレゼン1：「森、川、里、海の現状と課題」(各自10分発表、5分討論) ・分担して現状と課題を事前に調べ、プレゼンをする</p>								
授業計画 【第6回】	<p>< 2日目 > 第6回：プレゼン2：「森、川、里、海の現状と課題」(各自10分発表、5分討論) ・分担して現状と課題を事前に調べ、プレゼンをする</p>								
授業計画 【第7回】	<p>< 2日目 > 第7回：プレゼン：資料作成(PowerpointやKeynoteを用いた資料作成) ・他の学生のプレゼンとの関連性を見つけ、横断的なプレゼンを作成する。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>< 2日目 > 第8回：プレゼン：プレゼン準備、仕上げ ・他の学生のプレゼンとの関連性を見つけ、横断的なプレゼンを作成する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>< 3日目 > 第9回：沖水川でのフィールドワーク(内容変更または延期する場合もある)</p>								
授業計画 【第10回】	第10回：沖水川でのフィールドワーク：沖水川流域(水生生物調査、水質調査)								

授業計画【第11回】	第11回:沖水川でのフィールドワーク:沖水川流域(地形の変化、川の様子)
授業計画【第12回】	<4日目> 第12回:「総合的学習」における環境教育プログラムの立案:教科等との関連性
授業計画【第13回】	<4日目> 第13回:ESDカレンダー及び指導計画の作成① 教科等の教科書及び年間計画を参考にしてESDカレンダーを作成する。
授業計画【第14回】	<4日目> 第14回:ESDカレンダー及び指導計画の作成 教科等の教科書及び年間計画を参考にして探究的な授業の指導計画を作成する。
授業計画【第15回】	<4日目> 第15回:プレゼン「わたしの環境教育プログラム」 ・各自が作成したプログラムを発表する。
授業の到達目標	学校教育・幼児教育のなかでESDの視点に立った環境教育に取り組む意義を理解し、現状把握と問題点の認識を図る。その上で、受講者自身が野外活動を体験し、地域の環境に関する生態学および科学的知見を蓄積し、その知見を活用した環境教育を立案、グループ学習を通して練り上げ、表現するまでのプロセスを経ることで、初等教育(幼稚園を含む)における環境教育の実践的な指導法を習得することを目標とする。
学位授与の方針(DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)/1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題について(1時間程度)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
授業時間外学習【復習】	毎回の講義終了後に、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度)。また、終了時に提示される課題について(1時間程度)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
課題に対するフィードバック	課題については、随時、解説を行う。
評価方法・基準	演習への取り組みを、レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、意見発表(10%)、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協働的・創造的参画(20%)の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究最終報告所」(国立教育政策研究所・教育課程研究センター) ・「環境教育指導資料[小学校編]」国立教育政策研究所・教育課程研究センター(東洋館出版社) ・「持続可能な地域と学校のための学習社会文化論」〈「ESDでひらく未来」シリーズ〉(学文社) ・「小学校学習指導要領解説 理科編」(文部科学省)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季集中講義で実施する。 ・天候等により講義内容が入れ替わること、変更になることがある。 ・フィールドワークとして、干潟調査(重富干潟)または河川環境調査(沖水川)をおこなう。 <p>○夏季集中講義として9月初めの実施予定であるが、各実習とは日程が重ならないように調整する。</p>